

平成29年度地域包括支援センター事業評価
② 明第2西地域包括支援センター

評価指標の定義

- 4:大変よくできている
- 3:ある程度できている
- 2:あまりできていない
- 1:まったくできていない

松戸市

平成30年7月

1. 組織／運営体制

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項
①地域包括支援センター「事業計画」が適切に作成・実行されているか。	3	3.8		ア 介護予防については、地域包括職員だけでなく、デイの方に講師をしてもらったり、住民にも手伝ってもらった。体力測定会も行った。 介護予防教室3回終了後に自主化のサポートのために、フォローアップ研修を行った。サ高住の食堂を借りて、結果発表や活動報告を4回くらい行った。来年度も継続する。
評価の根拠	ア. 「事業計画」に委託契約仕様書の内容は網羅されている／いない	いる		
	イ. 「事業計画」を法人として決定している／いない	いる		
	ウ. 担当圏域やセンターが抱える課題を把握した上で、平成29年度の事業実施に当たっての重点業務を決めている／いない	いる		
	エ. ウが「いる」の場合、重点業務の具体的な内容【自由記入】	①民生委員との連携強化 ②居宅介護支援事業所と一緒に地域課題と解決のための具体策を考えられる体制作り ③介護予防体操教室を現行方法にとらわれず効果的・効率的・合理的に運営する ④介護支援ケアマネジメントのスキルアップと委託先居宅への指導		
	オ. 「事業計画」の進捗状況のチェック及びチェックに基づく業務改善の具体的な実施方法【自由記入】	目標値と目標達成のための具体的手段を設定し中間評価で進捗状況を確認したうえで、年度後半に残された業務に優先順位をつけた。		
	カ. その他【任意・自由記入】	事業計画は全体的にほぼ達成できたが、重点業務の一つであった「居宅介護支援事業所と一緒に地域課題と解決のための具体策を考えられる体制作り」は次年度への継続課題とする。		

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項
②担当する圏域における高齢者人口及び世帯の把握を行っているか。【29.4.1現在】		4	4		
評価の根拠	ア. 担当する圏域の65歳以上の高齢者人口【時点・人数を記入】	H 29 年 4 月 1 日現在 (7,900) 人			
	イ. 担当する圏域の65歳以上の独居世帯の数、高齢者世帯の65歳以上の高齢者数【時点・世帯数・人数を記入】	H 29 年 4 月 1 日現在 独居世帯数 (1,917) 世帯 65歳以上の高齢者世帯の高齢者数 (5,042) 人			
	ウ. 担当する圏域の75歳以上の高齢者人口【時点・人数を記入】	H 29 年 4 月 1 日現在 (3,389) 人			
	イ. 担当する圏域の75歳以上の独居世帯の数、高齢者世帯の75歳以上の高齢者数【時点・世帯数・人数を記入】	H 29 年 4 月 1 日現在 独居世帯数 (1,025) 世帯 75歳以上の高齢者世帯の高齢者数 (2,502) 人			

③担当する圏域における利用者のニーズの把握を行っているか。		4	4		
評価の根拠	ア. 実施しているニーズ把握の方法【自由記入】	・地域ケア会議出席者への地域課題アンケートの実施。 ・民生委員定例会に出席し地域の課題について民生委員の意見を聞いた。 ・町会単位で開催されている町会、民生委員、高齢者支援連絡会で行われている「三者懇談会」の議事録を地域ニーズの把握に活用している。			
	イ. ニーズを基に実行した取組の具体例【自由記入】	・住民同士の助け合いや高齢者自身の介護予防目的としてもボランティア活動の活発化の必要性が高まっているが、一方でボランティア人材の不足問題があることから、地域包括ケア推進会議において、既存のボランティア4団体を招き、地域の人に活動の紹介をもらった。			
④個人情報保護の徹底を行っているか。		3	3.3		
評価の根拠	ア. 個人情報保護マニュアルを整備し、職員全員が所持している／いない	いる			
	イ. 個人情報保護責任者を設けている／いない	いる			
	ウ. 個人情報の管理のためにしている具体的な方法 安全な保管場所(鍵・パスワード付)や管理の方法など【自由記入】	・個人情報資料は鍵付きの書庫に保管し終業時に施錠している。 ・パソコンはパスワードを入れないと始動できない設定にしている。 ・事務所が無人になる時間帯は(株)セコムによる防犯セキュリティシステムを導入し、24時間防犯カメラによる録画を行っている。			
	エ. 個人情報の取得・開示についてのチェック項目を設け、案件ごとに確認している／いない	いない			
	オ. その他【任意・自由記入】	個人情報の利用目的、個人情報取り扱いの基本指針を事務所入口に掲示している。			

⑤利用者が利用しやすい相談体制が組まれているか。	4	3.6	キ 地域パトロール(オレンジパトウォーク)で包括のチラシを圏域内のほとんどの住宅にポスティングしている。																
評価の根拠	ア. 夜間窓口(連絡先)の整備・周知の方策【自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括営業時間外にかかってくる電話は24時間365日有人の法人本部の固定電話に転送され対応している。法人本部からの緊急連絡には、地域包括相談員が常時2名体制で所持している携帯電話で受ける体制をとっている。 ・営業時間外での相談にも対応できることをセンター入口外部に掲示している。 																	
	イ. 対応分類(訪問、面接、電話)別の夜間対応の件数(29年度1年間)【月報の件数を記入】 ※17:00以降に対応した件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>5件 内(4件)</td> <td>1件)</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>5件 内(5件)</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>33件 内(25件)</td> <td>8件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>43件 内(34件)</td> <td>9件)</td> </tr> </tbody> </table>		本人又は親族	その他	訪問	5件 内(4件)	1件)	面接	5件 内(5件)	0件)	電話	33件 内(25件)	8件)	合計	43件 内(34件)	9件)		
		本人又は親族	その他																
	訪問	5件 内(4件)	1件)																
	面接	5件 内(5件)	0件)																
	電話	33件 内(25件)	8件)																
	合計	43件 内(34件)	9件)																
	ウ. 土曜・休日窓口(連絡先)の整備・周知の方策【自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括営業時間外にかかってくる電話は24時間365日、法人本部の固定電話に転送し宿直が対応している。法人本部からの緊急連絡には、地域包括相談員が常時2名体制で所持している携帯電話で受ける体制をとっている。 ・営業時間外での相談希望にも対応できることをセンター入口外部に掲示している。 ・土曜日に予約制で面接相談できることを載せたチラシを配布、ポスティングしている。 																	
エ. 対応分類(訪問、面接、電話)別の土曜・休日対応の件数(29年度1年間)【月報の件数を記入】 ※8:30-17:00に対応した件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>32件 内(31件)</td> <td>1件)</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>6件 内(5件)</td> <td>1件)</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>37件 内(25件)</td> <td>12件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>75件 内(61件)</td> <td>14件)</td> </tr> </tbody> </table>		本人又は親族	その他	訪問	32件 内(31件)	1件)	面接	6件 内(5件)	1件)	電話	37件 内(25件)	12件)	合計	75件 内(61件)	14件)			
	本人又は親族	その他																	
訪問	32件 内(31件)	1件)																	
面接	6件 内(5件)	1件)																	
電話	37件 内(25件)	12件)																	
合計	75件 内(61件)	14件)																	
※17:00以降に対応した件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>0件 内(0件)</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>0件 内(0件)</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>2件 内(0件)</td> <td>2件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2件 内(0件)</td> <td>2件)</td> </tr> </tbody> </table>		本人又は親族	その他	訪問	0件 内(0件)	0件)	面接	0件 内(0件)	0件)	電話	2件 内(0件)	2件)	合計	2件 内(0件)	2件)			
	本人又は親族	その他																	
訪問	0件 内(0件)	0件)																	
面接	0件 内(0件)	0件)																	
電話	2件 内(0件)	2件)																	
合計	2件 内(0件)	2件)																	
オ. 職員が、緊急時に連携できる医療機関・介護事業者等の各種施設の連絡先を携帯している/いない	いる																		
カ. 地域包括支援センターのPRのために講じている具体的方策【自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> ・町会サロンに出向き、地域包括の業務内容についてPRを行った。 ・オレンジ協力員との地域パトロール(オレンジパトウォーク)で地域包括のチラシを圏域内ほぼ全戸にポスティングを行った。 																		
キ. その他【任意・自由記入】	地域包括の知名度は高齢者関係の住民組織・団体に所属している人々には確実に向上してきていると感じるが、それ以外の高齢者そして高齢者以外の若い世代に対しても知名度を上げていきたい。																		

⑥利用者の満足度向上のための適切な苦情対応体制を整備しているか。		3	4		
評価の根拠	ア. 地域包括支援センターで受け付けた苦情受付件数と、そのうちセンター自体に対する苦情件数(29年度1年間)【件数を記入】	苦情受付件数 2件 (内センター自体の苦情 2件)			
	イ. 「29年度1年間に受けた苦情のうち最も困難な苦情」の解決にかかった時間及び解決のために主に連携した機関【時間及び機関を記入】	解決時間: 48時間 連携機関: 市役所			
	ウ. 苦情対応窓口に関する情報(連絡先、受付時間等)を公開している/いない	いる			
	エ. ウが「いる」場合、公開している場所・方法【自由記入】	事務所入口に苦情解決に関する規定を掲示している。			
	オ. 重大な苦情の内容及び対応方法を決定し、関係機関と共有している/いない	いる			
	カ. その他【任意・自由記入】	苦情受付表を作成し、組織としての迅速な対応と報告を行っている。			

2. 人員体制

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項
①多様なニーズに対応できる知識・経験のある職員の確保・育成を行っているか。	4	3.5		
評価の根拠	ア. 3職種(保健師等/社会福祉士/主任介護支援専門員)の欠員期間(日数)【日数を記入】 ※年度末に報告する欠員期間(日数)を記入 ※欠員がなければ0を記入	保健師等 : 0日 社会福祉士 : 0日 主任介護支援専門員: 0日		
	イ.「専門職総数」のうち「今年度新たに配属された専門職」の比率【比率(新たに配属された専門職数/専門職総数)を記入】	H29年度内に 新たに配属された専門職数 / 専門職の総数 0 / 4 = 0%		
	ウ. 専門職の当該地域包括支援センターでの平均勤続月数【月数を記入】 ※平成30年3月末現在の平均勤続月数を記入	平均 30月		
	エ. 職員に対する職場内研修の開催回数【回数を記入】	1回		

オ. その他【任意・自由記入】
(研修内容を記載する場合は、日時・内容・時間数を記入)

【職場内研修】

10月19日9時～10時 「これからの介護予防の取り組み」

【外部研修】

4月3日19時30分～21時「道路交通法改正に伴う認知症高齢者に関する講習会」(1名参加)
5月14日10時～11時 聖徳大学看護フェスタ「認知症の予防について」(1名参加)
5月24日14時～16時 「第1回松戸市居宅介護支援事業者等研修会」(3名参加)
6月15日10時～18時、16日9時30分～16時 「認知症地域支援推進員研修」(1名参加)
6月20日14時～16時 「地域包括支援センター合同研修会」(3名参加)
6月24日10時～12時 「ボランティア活動入門講座」(1名参加)
6月24日14時45分～16時30分「松戸市介護支援専門員平成29年度第1回研修会」(1名参加)
7月15日16時～17時 第14回日本高齢者虐待防止学会全国大会(松戸大会)「一歩先ゆく松戸市高齢者虐待防止～和田忠志」(1名参加)
8月30日14時～16時 「地域包括支援センター職員堅守会」(2名参加)
9月11日 「平成29年度認知症コーディネーター養成研修会」(1名参加)
9月21日14時～16時 「総合事業&市民後見人制度に関する研修会」(1名参加)
9月22日13時～16時 「第7回地域包括ケア応援セミナー厚生労働省」(1名参加)
10月20日17時45分～18時15分 「松戸市介護支援専門員協議会第2回研修会」(1名参加)
10月27日14時～16時 「松戸市高齢者虐待防止ネットワーク専門職向け研修会」(2名参加)
11月1日13時45分～16時45分 「介護予防ケアマネジメント研修会」(4名参加)
11月9日18時30分～20時30分 専門職向認知症関連研修会「認知症を理解するための戦略」(2名参加)
11月11日13時～19時、12日9時～15時半「認知症初期集中支援チーム員研修会」(1名参加)
11月13日「平成29年度認知症コーディネーター養成研修会」(1名参加)
12月6日14時30分～16時 第7回東松戸病院健康塾「呼吸を楽にする動き方を知ろう(東松戸病院)」(2名参加)
1月19日13時30分～16時40分 千葉県健康福祉部「地域ケア会議の開催に向けての中央勉強会」(2名参加)
1月19日13時～16時 「第2回居宅介護支援事業者等研修会」(1名参加)
1月20日13時30分～16時 千葉県健康福祉部「第3回介護予防担当者研修会」(1名参加)
2月6日10時～16時半、2月13日10時～16時半「高齢者虐待防止対策研修(虐待対応現任職員研修)」(2名参加)
2月22日10時30分～16時30分 「千葉県認知症コーディネーター・地域支援推進員フォローアップ研修会」(1名参加)

②専門職間の連携を効果的に行っているか。	4	3		
評価の根拠	ア. すべての専門職の「連携活動評価尺度」の得点 【すべての専門職の得点を記入】 ※全国平均は24.5点 ※平成30年3月末現在在籍している全ての専門職について記入 ①33点 ②24点 ③35点 ④25点 平均 29.3点		/	

3. 総合相談支援業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項
①相談内容の把握・分析を行っているか。	3	4		
評価の根拠	ア. 分類別の相談件数 (29年度1年間) a.本人又は親族への支援 【月報の件数を記入】 b.本人又は親族以外の機関への支援 【月報の件数を記入】	a.本人又は親族への支援 介護に関する相談 1,905 件 健康・医療に関する相談 1,308 件 経済的相談 447 件 介護予防に関する相談 228 件 家族調整に関する相談 281 件 権利擁護に関する相談 179 件 諸制度に関する相談 51 件 地域の社会資源に関する相談 93 件 その他 1,042 件 総計 5,534 件 b.本人又は親族以外の機関への支援 介護に関する相談 1,566 件 健康・医療に関する相談 1,058 件 経済的相談 426 件 介護予防に関する相談 66 件 家族調整に関する相談 341 件 権利擁護に関する相談 287 件 諸制度に関する相談 25 件 地域の社会資源に関する相談 22 件 その他 841 件 総計 4,632 件		
	イ. 他のセンターと比較した分類別の相談件数の特性と、当該センターにおける相談内容の主な特徴の検討結果【自由記入】※直近の介護保険運営協議会資料を参照して比較検討	相談総件数は15地域包括中3番目に多く2683件。相談内容別で多いのは「介護に関する相談」(35.1%)、次いで「健康医療に関する相談」(25.2%)でこの2つで60.3%を占める。相談内容別構成比を他地域包括と比較した場合、比率がやや高めの相談内容は「経済的相談」「家族調整」で地域特性として「貧困」や「他問題を抱える家族支援」が多いと考えられる。ほとんどの相談分野の構成比率が全15地域包括中の中位である一方「その他」が高くなっている(15.2%)ことは、当地域包括が様々な広範囲の分野について相談支援を行っている結果であると考察する。「その他」に含まれる代表的な内容は「老人ホーム等施設探し」「近隣トラブル」「相続などの法律的なこと」等である。		

ウ. 全ての相談事例について相談受付表を作成し、緊急性を判断している／いない	いる			
エ. 主担当職員が不在の場合でも対応できるように職員間で共有できる記録の管理を行っている／いない	いる			
オ. その他【任意・自由記入】	毎朝のミーティングで前日のケースワーク報告、緊急性の判断、支援方針の確認を全職員で行っている。その際、最近の相談内容の傾向等について職員間の意見交換も行っている。			

②相談事例の解決のために、進捗管理や他分野との連携等、必要な対応を行っているか。	4	4		
ア. 解決困難な相談事例を分類し、進捗管理を定期的に行っている／いない	いる			
イ. 専門的・継続的な関与又は緊急の対応が必要と判断した場合であって、市へ報告した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	80代、認知症。内縁関係にある同居人が生死に関わる交通事故に遭い入院。本人認知症により独居不可能な状態であるため、同日すぐに介護申請、ケアマネ探し、ショートステイ手配を行った。経済困窮状態でもあったため生活保護申請支援。本人が金銭管理能力なく、市長申立てによる成年後見申立てを行った。本人は老健入所した。			
ウ. 障害者支援機関と連携して対応した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	70代、要介護。知的障害の子と同居、生活保護受給世帯。子からの暴力による警察からの通報ケース。子の暴力は頻回に発生。子を支援する障害福祉作業所、障害者ショートステイ、市障害福祉課と頻りに連絡を取り合い、安全確保のため親子の分離を行った。その後子は障害施設に入居した。			
エ. 介護家族からの相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	80代、介護未申請、認知症、全盲。突然本人が精神錯乱で自宅で暴れ配偶者も暴力を受け警察通報したが、警察の介入ケースではないと言われて困った配偶者が包括にSOSの連絡を入れた。地域包括で入院できる精神科病院を探したが急には見つからず、当日は介護施設でのショートステイ利用したがそこでも暴れた。翌日に入院を受け入れてくれる精神科病院をみつけて医療保護入院となった。			
オ. 介護と仕事の両立支援など、子育て部門と連携して対応した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	70代、介護未申請。配偶者(キーパーソン)・学生で知的障害がある子①、学生である子②の4人暮らしだったが、数ヶ月前に配偶者が死亡。本人はアルコールに依存しがちで、金銭的にも体力的にも未成年の子2人を育てることは困難。知的障害の子①の支援では基幹相談支援センター・障害のケアマネ・特別支援学校の先生と、もう1人の子②の支援では学校の先生と連携して一家の支援を行っている。生保相談、金銭管理相談、生活支援の相談を行っている。			
カ. その他【任意・自由記入】	毎月1回、全職員ですべてのケースワークの進捗状況を確認し支援の終結・継続の判断と支援方針の確認をしている。			

③地域における関係機関のネットワークの構築を行っているか。		3	3.7		
評価の根拠	ア. 地域(圏域内・外)のネットワークの構成員や組織、関係性等の情報をマップやリストで管理している/いない	いる			
	イ. 職員が参加した関係機関・組織等が主催する全ての会議・行事等の総件数・日程・テーマ 【総件数・日程・テーマを記入】 ①関係機関・地域の町会等による住民等向けイベント ②関係機関等の関係者・専門職向け会議・イベント ③地域密着型サービス事業者の運営推進会議等に大別して記入 ※地域ケア会議、センター長会議、各専門職部会などは含まない。 ※介護予防普及啓発活動、認知症サポーター養成講座など他の項目で記入している内容は重複して記入しない。	<p>①関係機関・地域の町会等による住民等向けのイベント(4件) 2月9日「えがおのサロン」(町会サロン参加) 3月13日「なごむサロン」(町会サロン参加) 12月14日「松戸市第2回地域別講演会」(テーマ)『住み慣れた地域で最期まで暮らすには(在宅医療について)』 2月24日「明第2西地区社会福祉協議会」『あきらこどもまつり』</p> <p>②関係機関等の関係者・専門職向け会議・イベント (14件) 【明第2西 民生委員定例会出席】 5月11日、6月12日、9月11日、12月11日、2月13日</p> <p>【高齢者支援連絡会】 4月20日「明第2西地区高齢者支援連絡会総会」 5月10日「明第2西地区高齢者支援連絡会専門部会」 9月13日「明第2西地区高齢者支援連絡会専門部会」 1月15日「明第2西地区高齢者支援連絡会専門部会研修会」(テーマ)『高齢者における口腔ケアのポイント』 2月15日「明第2西地区高齢者支援連絡会企画部会」 3月14日「明第2西地区高齢者支援連絡会専門部会」 【司法と福祉の勉強会】 4月25日(テーマ)『成年後見人の現場力教えます』 6月27日(テーマ)『更生保護について』</p> <p>【その他】 5月21日「明第2西地区社会福祉協議会評議会」</p>			
	ウ. 個人の有するネットワークを専門職で共有している/いない	いる			
		③地域密着型サービス事業者の運営推進会議等 (17件) 【小規模多機能事業所「わいわい豊夢」】 4月8日、6月10日、8月12日、10月14日、2月10日 【認知症グループホームみくに松戸の園】 5月13日、7月8日、9月9日、3月10日 【認知症グループホームみくに栄の園】 5月13日、7月8日、9月9日、3月10日 【定期巡回・随時対応型訪問介護看護みくに】 5月13日、7月8日、9月9日、3月10日			

④地域の社会資源について把握および開発を行っているか。		4	3.7		
評価の根拠	ア. 高齢者支援等を行う介護保険外サービス(※)を行う地域(圏域内・外)の社会資源のうち、センターと連携や交流の実績がある資源の数(〇ヶ所)【ヶ所数を記入】 ※配食、見守り、移送、サロン、地域の予防活動等	圏域内 9ヶ所 (配食1 見守り1 移送0 サロン7 地域の予防活動1) 圏域外 3ヶ所 (配食2 見守り0 移送1 サロン0 地域の予防活動0)			
	イ. <マップについて> 地域の社会資源に関するマップについて ①マップを作成し、社会資源の開催内容・場所・回数・連絡先等の情報が掲載されている ②マップを作成しているが、社会資源の開催内容・場所・回数・連絡先等の情報が掲載されてない ③マップは作成していない 【①・②・③を選択】 ※マップを一部提出	①マップを作成し、社会資源の開催内容・場所・回数・連絡先等の情報が掲載されている			
	ウ. <マップについて> 「イ」の地域の社会資源に関するマップを平成29年度内に更新をしている/いない	いる			
	エ. <マップについて> 作成した社会資源に関するマップの活用及び周知方法【自由記入】	地域包括の受付に常備し自由に閲覧してもらっているほか、介護保険施設、サービス事業所、居宅介護支援専門員に配布している。			

評価の根拠	<p>オ. 社会資源(※)の立ち上げ運営又はそれらの支援を行った数と、そのうち新規立ち上げ支援数(29年度1年間)【ヶ所数を記入】 (※)住民主体の予防活動、通いの場、サロン、認知症カフェ等</p>	<p>総数 3ヶ所 (内新規立ち上げ支援数 2ヶ所)</p>			
	<p>カ. 「オ」の各社会資源の種類・特徴・開催回数(週・月〇回)など詳細情報【自由記入】</p>	<p>①「すまいるクラブ樋野口」(種類)住民主体の介護予防体操(特徴)DVDを見ながら体操をしたり、メンバー同士の会話やレクリエーションで認知症予防を行う(毎週1回開催)(支援の内容)立ち上げ支援 ②「すまいるクラブ古ヶ崎」(種類)住民主体の介護予防体操(特徴)DVDを見ながら体操をしたり、メンバー同士の会話やレクリエーションで認知症予防を行う(毎週1回開催)(支援の内容)立ち上げ支援 ③「みそ汁の会」(種類)1人で食事をしている高齢者に週1回みんなで食事をする機会を提供する(特徴)ボランティア団体が主催(支援の内容)PRチラシの配布</p>			
	<p>キ. その他【任意・自由記入】</p>	<p>新しい社会資源の開発にはたくさんのアイデアと労力と時間がかかり1年間で形にすることは難しいため、長期継続的に試行錯誤を繰り返し課題に取り組んでいる。</p>			

4. 権利擁護業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項	
①成年後見制度や日常生活自立支援事業(社協)の活用を促進しているか。	4	4	ア 職員が誰でも同じ対応がとれるよう、成年後見のチェック項目をもうけている。		
評価の根拠	ア. 成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用する必要がある者の把握方法【自由記入】	<p>家族、地域住民、介護支援専門員からの相談で把握する場合はほとんどである。アセスメントにおいて、①本人に日常生活費の管理を行う能力が十分あるか ②家計が黒字になっているか ③金銭管理を任せられる、信頼できるキーパーソンが存在するか ④家族親族間に金銭・相続に関するトラブルはないか ⑤「オレオレ詐欺」等特殊詐欺の被害にあったことがないか ⑥本人の管理能力を超える財産や事業収入等がないか 等を確認している。</p>			
	イ. ①成年後見制度活用につなげたケース数(29年度1年間)【月報の件数を記入】、②他のセンターとの比較等を通じた当該センターの特性の分析と今後の対応策の検討結果【自由記入】 ※介護保険運営協議会資料を参照して比較検討	<p>① 6件(市長申立1件 親族申立5件)</p> <p>②6件のうち5件が後見類型、1件が保佐類型であった。6件すべてが認知症患者であった。地域包括がつかない件数としては比較的多い数字となっている。申立費用や報酬に対する市の助成制度も活用しながら必要な高齢者の支援を推進していく方針である。</p>			
	ウ. ①日常生活自立支援事業につなげたケース数(29年度1年間)【月報の件数を記入】、②他のセンターとの比較等を通じた当該センターの特性の分析と今後の対応策の検討結果【自由記入】 ※介護保険運営協議会資料等を参照して比較検討	<p>① 1件</p> <p>②つなげたケースは1件。MCIや認知症の独居高齢者が増え続けている中で高齢者が地域での社会生活を維持するための重要な事業であり、必要な高齢者に対して積極的に活用を支援していく。また松戸市地域包括社会福祉士部会に働きかけて、全15地域包括をあげて介護支援専門員等の専門職や地域住民に対する啓発を提案する。</p>			
	エ. その他【任意・自由記入】	<p>成年後見制度の活用において経験の少ない職員もいるので、経験のある職員によるOJTでセンター全体のレベルアップを図っている。</p>			

②関係機関と連携しつつ、高齢者虐待事例に対して適切かつ迅速に対応しているか。		4	3.7			
評価の根拠	ア. センター自身が警察や法律家と連携して対応した高齢者虐待事案の件数(29年度1年間)【件数を記入】	1件				
	イ. 職員が、虐待事例に関する緊急時に連携できる介護施設・医療機関等の各種施設の連絡先を携帯している／いない	いる				
	ウ. 通報を受け48時間(24時間)以内に安全確認や必要な対応を行った事例の概要と対応内容(1事例)	同居の子が高齢者の胴体部を金属製の鎖と南京錠でベッドに拘束しているのを朝、高齢者を迎えに行ったデイサービス職員が発見し、ケアマネ、地域包括に報告した。すぐにデイサービスに行き本人の状態を確認。腹部が鎖の跡で赤くただれ浸出液が出ていたため、デイサービスに119番通報を依頼し当日すぐに自宅訪問し子を面接した。子としては「悪意はなく、夜勤で不在にしている間に高齢者が起き上がり転倒するといけなかったので動けなくした。ここ1週間位に急激に本人の症状(ADL、認知機能)が悪化したので動く危険なと思い、昨晚初めてチェーンを使用した」とのこと。翌日警察と同行訪問し子と話し合いの結果、子から「もう自分では面倒を見られない」との発言があり、ショートステイ利用を経て施設入所の方針が決まった。				
	エ. その他【任意・自由記入】	すべてのケースにおいて、安全確認は通報受理から原則24時間以内、遅くとも48時間以内に訪問を行っている。				

③消費者被害の防止や権利擁護に関する啓発に関する取組を行っているか。		3	4		
評価の根拠	ア. 松戸市消費生活センター(又は松戸市消費生活課)との定期的な情報交換の方策及び頻度【自由記入】	消費生活センターを半年に1回訪問し、消費者被害防止等のパンフレットや見守りガイドブック等を収集した。定期的な情報交換は行わなかった。			
	イ. 消費者被害防止のための民生委員・介護支援専門員・訪問介護員等への情報提供等の実施方策及び頻度【自由記入】	「民生委員定例会」・「地元商店会との高齢者見守りのための意見交換会」において出席者に、消費者センターが作成した「高齢者の消費者トラブル見守りガイドブック」を配布した。			
	ウ. センターが開催した権利擁護に関する全ての住民向け講演会の開催回数・日程・内容・主な参加者層・参加者数【開催回数・日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】 ※他センターとの合同開催も記載し、その旨を明記	開催回数合計 1回(6地域包括合同開催) (日程)平成29年11月22日(水)14時～15時40分 (内容)①松戸市の高齢者虐待通報の現状報告 ②臨床心理士による講演「介護する人される人 大切な心のケア」 (参加者)55名(地域住民、民生委員、医療関係者、介護関係者等)			
	エ. その他【任意・自由記入】	(事例)ケアマネから、担当している利用者が必要のない高額に住宅リフォームを業者と契約してしまったとの相談があり、即日高齢者と消費生活センターに同行しクーリングオフの手続きを支援した。			

5. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項
①地域の介護支援専門員に対して、日常的指導・相談を効果的に行っているか。	3	4		
ア. 29年度1年間における地域の介護支援専門員からの相談件数【月報の件数を記入】	1,282 件	/		
イ. 「29年度1年間における地域の介護支援専門員から受けた相談のうち最も困難な相談事例(1事例)」の概要及び対応内容【自由記入】	生活費の管理を含め生活全般を任せていた子が急死した高齢者が金銭管理ができず、訪問販売の被害にもあっているとのケアマネからの相談。認知機能障害の程度はMCIレベル～認知症初期程度であった。高齢者に成年後見制度の利用を提案するも必要性を理解してもらえなかったが、訪問や金融機関への同行支援を積み重ねて信頼関係を築くことができ保佐類型での申し立てを行うことができた。			
ウ. 29年度1年間における「地域の介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会」の開催回数【回数を記入】	3回			
エ. 29年度1年間における「地域の介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会」の日程・内容・講師【日程・内容・講師を記入】	<p>①「第4回ケアマネ楽習会」 (日程)平成29年5月18日 (内容)「ケアプラン作成の基本:課題とPDCAサイクル」 (講師)明第2西地域包括支援センター予防管理者 (参加)16名</p> <p>②「第5回ケアマネ楽習会」 (日程)平成29年8月18日 (内容)「ターミナルケア・看取りについて」 (参加)27名</p> <p>③「第7回ケアマネ楽習会」 (日程)平成30年2月16日 (内容)「知っておこう! 社会保険と公的年金のしくみ」 (講師)社会保険労務士を招聘 (参加)37名</p>			
オ. その他【任意・自由記入】	介護支援専門員が必要としている研修内容についてアンケートを行い、研修会のテーマ選定の参考にしている。	/		
評価の根拠				

<p>②地域の介護支援専門員に対して、支援困難事例等への個別指導・助言を効果的に行っているか。</p>	<p>4</p>	<p>3.7</p>			
<p>評価の根拠</p>	<p>ア. 同行訪問による個別指導・助言の件数(29年度1年間) 【月報の件数を記入】 ※サービス担当者会議への出席は同行訪問に含めないものとする。</p>	<p>226件</p>			
	<p>イ. アのうち、最も支援困難な事例(1事例)の概要及び個別指導・助言の内容【自由記入】</p>	<p>通院・服薬を自己中断してしまう自分勝手に短気で暴言癖のある独居高齢者の病状が悪化し歩行困難、尿失禁が進行、さらに計画的な生活費の使い方ができないため水道光熱費の滞納で電気・ガスが止められてしまった事例。「自分の言うことを聞かない」という理由で訪問ヘルパーとのトラブルを繰り返すため訪問介護サービスの利用が中断となったため、地域包括職員とケアマネが3週間にわたり毎日食料や紙オムツの買い物代行、見守り訪問を継続する中で関係性を構築。、また本人だけでは適切な受診ができないと判断し地域包括が同行受診。複数科での精密検査が必要であったため、3日間1日がかりの受診に同行した結果入院となり、頼れる親族がいなかったため入院の手続きをすべて地域包括が行った。しかし、入院中に病院とトラブルを起こし数日で強制退院となった。電気・ガス料金の未納についても地域包括がぎりぎりの生活費の中からやりくりして返済を支援し使用再開手続きを行った。自宅に戻ってからも何度も体調不良になり自分で救急車を呼んでは入院にはならず家に戻されることを繰り返し、そのたびに本人から地域包括に電話がかかり心配な場合は訪問をした。こうした支援を通して信頼関係を継続し、ケアマネと共に訪問介護の再導入、訪問診療の開始を行った。</p>			
	<p>ウ. サービス担当者会議への出席による指導・助言の件数(29年度1年間)【月報の件数を記入】</p>	<p>21件</p>			
	<p>エ. ウのうち、最も支援困難な事例(1事例)の概要及び指導・助言の内容【自由記入】</p>	<p>50代の子が認知症の同居高齢者を介護している事例で、子から家の中がゴミ屋敷であることを理由に訪問拒否をされ担当者会議も開催できない、というケアマネからの相談。地域包括から子に「訪問の必要性」と「担当者会議の意味」を説明し何とか子の了承を得て、地域包括も担当者会議に出席。デイサービス利用、病院受診、家の中の片づけなどの話し合いを行った。継続してケアマネ支援を行っている。</p>			
	<p>オ. その他【任意・自由記入】</p>	<p>支援困難事例に対しては、初回の電話のみで解決する場合を除いて、原則介護支援専門員と同行訪問して利用者の状況を直接確認したうえで適切な助言を行うようにしている。</p>			

6. 地域ケア会議関係業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項
①地域ケア会議の開催を通じて、地域の課題を把握しているか。	4	4		
評価の根拠	ア. 29年度1年間における、地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の開催回数【件数を記入】	①地域包括ケア推進会議 2回 ②地域個別ケア会議 4回		
	イ. 地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の開催に当たって、関係機関等の意見を聴取した上で、議題とする事例やテーマを選定している／いない	いる		
	ウ. アが「いる」の場合、その具体的方策【自由記入】	地域ケア会議委員、出席者全員に地域課題のアンケートを実施してテーマ選定の参考にしている。		
	エ. 議題とする事例やテーマにあわせて、地域ケア会議の参加者を決定している／いない	いる		
	オ. エが「いる」の場合に、①当該地域個別ケア会議の事例と②参加した医療・介護関係者以外の関係者の職種【事例・職種を記入】	①統合失調症で独居の高齢者が、それまで金銭管理や高齢者の世話をしていた同居の親がつい最近死去したことを認識できないために近いうちに生活費が行き詰ってしまう可能性が高いのだが、支援の介入を拒否し、近隣住民も火の不始末などを心配している事例。今後の見守り体制を中心に話し合った。 ②担当の民生委員が地域個別ケア会議に出席。		
	カ. 地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の議論内容(議論のまとめ又は議事録)を参加者間で共有している／いない	いる		
	キ. その他【任意・自由記入】	平成30年1月10日の地域包括ケア推進会議において、地域課題とその対応策についてまとめた資料を作成、発表し出席者全員の情報共有・意識共有を行った。		

②3層構造の地域ケア会議の連携を通じて、地域の課題解決を図っているか。		3	4	エ 商店会と地域の見守りネットワーク構築のための意見交換会を開催し、認知症サポーター養成講座を実施した。
評価の根拠	ア. 地域個別ケア会議の個別事例から課題を抽出し、地域包括ケア推進会議での議題にあげている事例(2事例)【自由記入】	精神疾患の高齢者による迷惑行為や脅迫的な言動に対して、警察や保健所による介入対象ではない事例で、近隣住民がどのように対処していいかわからず不安を募らせている。推進会議において「地域住民の精神障害についての理解が低い」ということを地域課題として報告した。		
		1人で通院できない高齢者の通院同行、院内介助を近所の知人1人で行っていて負担が大きく支援継続が難しい、という事例。地域課題として今後ますます院内介助を必要とする高齢者が増えてくることが予想されるため、院内介助のボランティア制度を整備できないだろうか、ということ推進会議で報告した。		
	イ. 地域包括ケア推進会議で抽出された課題をまとめて、市の定める期限・様式に従って、市に報告している／いない	いる		
	ウ. 市の地域ケア会議での決定事項を、地域包括ケア推進会議で報告している／いない	いる		
エ. その他【任意・自由記入】	市の地域ケア会議で市の課題とされた「商店による高齢者の見守り強化」の対応策として、当地域包括の担当地域において「栄町商店会と地域包括による高齢者見守りネットワーク構築のための意見交換会」を開催し、その成果を次の市の地域ケア会議においてフィードバックした。			

7. 在宅医療・介護連携推進業務

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項
①医療機関との緊密な連携を行っているか。		4	4		
評価の根拠	ア. 在宅医療を行う医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要【自由記入】	子が、認知症で要介護の高齢者を介護サービスを利用せずに介護していたが、定期受診せずに主治医もいなかった事例。地域包括が定期的に行っていた見守り訪問の中で、高齢者の臀部の褥瘡を見つけた。高齢者は肥満で自立歩行が困難であったため、訪問診療機関の医師と同行訪問し情報提供、経過報告を行い訪問診療、訪問看護の継続利用につなげた。	/		
		90代で老衰が進んでいる寝たきりの高齢者の体調が悪いと同居の子が相談してきた事例。長期間受診していなかったため、地域包括が往診医を探し情報提供して往診を依頼した。その後同医師による訪問診療が開始された。		/	
	イ. 外来診療を行う医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要【自由記入】	最近60代になった統合失調症で独居の高齢者。60代になり障害年金から老齢年金への受給切り替え手続きを行う必要があったがそのことを理解できずに地域包括の介入を拒否して生活が行き詰っていた。高齢者が定期通院していた精神科病院に包括が訪問し緊密に連絡を取り合い、保健所とも連携し任意入院に至った。	/		
		「お化けが家にいる」という幻覚を訴える高齢者の事例。精神科の受診を勧めたが過去の経験から精神科に対する不信が強く拒否したため、地域包括から精神科医に電話で相談。何度も地域包括に不安を訴える電話をかけてくる高齢者に1時間以上電話で傾聴したり、何度も訪問したりして信頼関係をつくった後に精神科を同行受診し、定期受診につないだ。		/	
	ウ. 入院医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要【自由記入】	脳梗塞で突然倒れ全介助状態になった高齢者の事例。同居家族は知的障害の子だけで、配偶者は重度の認知症で長期入院中。多問題を抱える家庭であった。高齢者と配偶者それぞれの入院先病院と緊密に連絡を取り知的障害の子を支援するCoCoとも連携し3人を支援している。	/		
	認知症高齢者である高齢者を介護していた配偶者が脳梗塞で倒れた事例。配偶者は軽症ですぐに退院したが、介護負担により脳梗塞が再発する恐れがあるため、高齢者の地域包括ケア病棟入院支援を行い、入院後も病院と緊密に連携し、リハビリの状況や退院後の夫婦の生活をどうするかを話し合った。結果的に高齢者は家には戻らず特養入所待ちでショートステイを長期利用することとなった。	/			
エ. その他【任意・自由記入】	個別のケースワークにおいて、必要な場合は必ず主治医に情報提供と連携を行い、同行受診や主治医との面接を積極的に行っている。	/			

<p>②医療関係者とのネットワークを活用して、地域における医療的な課題の解決を図っているか。</p>	3	3.6		
<p>評価の根拠</p>	<p>ア. 地域サポート医(在宅医療・介護相談窓口)へ相談を行った件数(29年度1年間)【①相談支援件数・②アウトリーチ件数・③総件数を記入】 ※相談支援件数・アウトリーチ件数は別掲 ※地域サポート医事務局を介した件数を再掲</p>	<p>①相談支援件数 1件 (内、サポート医事業 0件) ②アウトリーチ件数 5件 (内、サポート医事業 5件) ③総件数(①+②) 6件 (内、サポート医事業 件)</p>	/	
	<p>イ. 地域サポート医との連携により、地域における医療的な課題に対応した事例(2事例)の概要【自由記入】</p>	<p>2人とも認知症である夫婦の事例。金銭管理ができず家賃や電話料金未納が続き親族が地域包括に相談した事例。2人とも医療機関にもかかっておらず地域包括の介入には拒否が強かった。介護保険申請、後見申立てのためにも主治医が必要であったため、サポート医事業でアウトリーチを依頼。結果、介護保険申請、後見申立てが実現した。サポート医はそのまま保険診療で訪問診療を継続している。</p>	/	
		<p>数年来重度のうつ症状であるが精神科の受診を拒否していた高齢者の事例。うつ症状が悪化し食事できなくなり衰弱で危険な状態であったためサポート医事業でアウトリーチを依頼。初回アウトリーチでサポート医が本人を説得し救急搬送を手配し入院となった。</p>	/	
	<p>ウ. 医療関係者とのネットワークを構築するためにしている具体的な方策【自由記入】</p>	<p>医療・介護連携に関する会議や研修に積極的に参加している。また地域ケア会議に医師2名、看護師2名、薬剤師2名、歯科医師1名参加してもらっている。</p>	/	

<p>エ. 医療関係者と合同で参加した全ての事例検討・研修会・勉強会の日程・テーマ【参加回数合計・日程・テーマを記入】※担当者会議は含まない</p>	<p>参加回数合計 5回 7月11日 「第1回東葛北部地域リハビリテーション広域支援センター認知症患者医療センター合同連絡協議会」 (テーマ)『千葉地域リハパートナー制度』</p> <p>9月25日 「在宅医療介護連携相談窓口プロジェクト事例検討会」 (テーマ)『地域サポート医と共同事例①』</p> <p>2月6日 「第2回東葛北部地域リハビリテーション広域支援センター認知症患者医療センター合同連絡協議会」 (テーマ)『介護予防事業へのリハビリ職の参加について』</p> <p>2月8日 「在宅医療関連多職種連携会議(松戸市立総合医療センター)」</p> <p>3月19日 「在宅医療介護連携相談窓口プロジェクト事例検討会」 (テーマ)『地域サポート医と共同事例②』</p>		
<p>オ. その他【任意・自由記入】</p>	<p>「在宅療連携相談窓口プロジェクト事例検討会」において、地域サポート医との共同事例を発表した。</p>		

8. 認知症高齢者支援

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項
①認知症の早期把握・早期対応を推進しているか。	3	3.8		
評価の根拠	ア. 包括自身が主体となって認知症初期集中支援チーム事業を実施している/いない	いない		
	イ. 認知症初期集中支援チームにつないだ、または包括自身が認知症初期集中支援チームとして実施した事例の件数(29年度1年間)【件数を記入】	2件		
	ウ. 認知症初期集中支援チームにつないだ事例(1事例)の概要・センターの対応内容・チームとの連携内容 チームを実施している包括は、支援事例(1事例)の概要・チームとしての対応内容・関係者との連携内容【自由記入】	服薬できていない、家賃の支払い忘れが増えている、ゴミ出しルールが守れず近隣トラブルになる、同じものばかり買ってきて冷蔵庫がいっぱいになっている、入浴せず保清ができていない等の問題がある高齢者。介入拒否で介護サービス利用は難しい。定期受診は姉妹が同行しているが、姉妹も年を取り生活全般の支援は難しくなっている。認知症初期集中支援チーム事業にて関係性構築および介護保険サービス利用を目標に支援。支援チームはこれまで他人との接触を拒んでいた高齢者と話をできる関係にまで介入できたが、介護サービスの利用までは至らなかった。地域包括ではチームが築いた関係性を継承し訪問・見守りを継続している。		
	エ. DASCを活用した軽度認知症についてのアセスメントを実施し、継続支援につながった件数(29年度1年間)【件数を記入】	20件		
	オ. DASCを活用してアセスメントを行った事例(1事例)におけるケアマネジメントの内容と実際に行われた医療機関受診・サービス利用・セルフケアの内容【自由記入】	90代、DASC40点。子家族と同居。デイサービスに行く日を忘れるなどの物忘れが進んでいる。高齢であり薬物治療による副作用の方が心配という本人・家族の意向があり、子の協力のもと、日めくりカレンダーの活用で日にちや予定の把握に取り組む等のセルフケアで様子を見ていくことになった。主治医に対してDASCの結果とセルフケアプランの情報を提供した。		
	カ. その他【任意・自由記入】	地域の介護支援専門員にもDASCを活用した認知症予防マネジメント事業を周知し、対象者が広く把握できるように協力を依頼している。		

②認知症高齢者に対する地域での支援基盤を構築しているか。		4	3.4	イ 認知症の方や小学生などの地域の見守りパトロール(オレンジパトウオーク)をオレンジ協力員と企画・実施している。認知症の方の散歩の同行も併せて行い、オレンジ協力員と認知症の方のコミュニケーション、外出、運動の機会を同時に作っている。
評価の根拠	ア. オレンジ協力員による「専門職と協力しながらの実践活動」の実施件数(29年度1年間)【件数を記入】	20件 ・認知症の方との散歩同行5件 ・グループホームみくにでのバーキュー&ミニ運動会1件 ・すまいるサロン栄町西11件、 ・すまいるクラブ樋野口2件 ・すまいるクラブ古ヶ崎1件 ※他にオレンジ協力員と地域包括職員によるオレンジパトウオークを35回実施した。		カ オレンジ協力員にスキルアップ研修として、参加者の利便性を考慮し、無料の通信講座(郵送での添削課題あり)を立ち上げ、実施している。
	イ. アのうち、最も難易度の高いと考えられる実践活動の内容【自由記入】	オレンジ協力員と地域包括職員が行う見守りパトロールである「オレンジパトウオーク」との同時開催企画として『認知症の方の散歩同行』を行った。オレンジ協力員と地域包括職員が認知症の方の自宅に迎えに行き、自宅周辺を40分程度、会話をしながら散歩する企画。オレンジ協力員と認知症の方とのコミュニケーションの機会と外出機会、運動機会を同時に作る事ができている。		
	ウ. センターが開催した全ての認知症サポーター養成講座の日程・主な対象者・参加者数【参加者合計・日程・主な対象者・参加者数を記入】	参加者合計 3回 57名 ①6月16日:(対象者)地域住民(参加者数)31名 ②11月25日:(対象者)老人ホーム入所者と家族(参加者数)23名 ③3月23日:(対象者)地域住民(参加者数)3名		
	エ. 認知症ケアパスの普及啓発のために行っている具体的方策【自由記入】	地域包括の受付に常備し配布している。また、地域包括職員が参加する町会サロンや老人クラブで配布している。		
	オ. 認知症地域支援推進員の配置人数【人数を記入】※平成30年3月末現在の配置数を記入	2人		
	カ. 認知症地域支援推進員として活動した内容(29年度1年間)【自由記入】※ケアパス検討会等への出席を含む	・第1回認知症地域支援推進員打ち合わせへの出席(7月18日) ・まつどまつりでの認知症啓発活動への参加(10月7日) ・第4回認知症地域支援推進員打ち合わせへの出席(12月18日) ・第6回認知症地域支援推進員打ち合わせへの出席(2月22日) ・市役所連絡通路での認知症啓発イベントへの出席(3月5日)		
	キ. その他【任意・自由記入】	地域包括職員3名が認知症コーディネーターとしてオレンジ協力員との協働、スキルアップ研修などに取り組んだ。		

9. 介護予防ケアマネジメント業務、介護予防支援関係業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項	
①自立支援に向けたケアマネジメントを行っているか。	4	2.7		ウ 圏域内の事業所がないため、事例もなし。	
評価の根拠	ア. 自立支援型ケアマネジメント検討会への出席回数(延べ人数)【出席回数・延べ人数を記入】	11回 (延べ 24人)			
	イ. センターが行うケアマネジメントを通じて、住民主体のサービス、地域の予防活動等につないだ事例(2事例)の概要と対応内容【自由記入】	事業対象者としてリハビリ中心のデイサービスを利用していたが運動機能の改善が進み、チェックリストで非該当となった。セルフケアと「歩こう会」と地域包括が立上げ支援した住民主体の体操クラブにつないだ。 70代。事業対象者としてデイサービスを利用し認知症予防の脳トレやおしゃべりを楽しんでいたが、もの忘れや精神面の不安定さに改善が見られ、チェックリスト非該当になった。本人はデイサービスに行くことで良い状態を維持したいという希望があったが、車を運転して外出もできていたことから民間のスポーツクラブと地域包括が開催しているサロン等を活用していくことになった。			
	ウ. センターが行うケアマネジメントを通じて、短期集中予防サービスなどにつなぎ、心身機能の改善につながった事例(2事例)の概要と対応内容【自由記入】	なし			
		なし			
	エ. ケアマネジメントC作成件数(29年度1年間)【件数を記入】	0件			

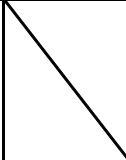
評価の根拠	オ. 一般的なケースにおけるモニタリングの実施頻度と実施内容【実施頻度と実施内容を記入】	3ヶ月に1度以上の自宅訪問と月に1回以上の電話等でのモニタリングで、サービスの利用状況や目標の達成具合、サービス量が適切かどうか、体調の確認等を行っている。ケアプラン更新月にはモニタリングと評価のための訪問と、その後作成したケアプラン原案の説明のための再度の訪問を行っている。		
	カ. その他【任意・自由記入】	サービスを利用していた要支援認定者・事業対象者でケアプラン目標を達成したためサービス利用を終了(卒業)した事例が8件あった。		

②居宅介護支援事業者へのケアマネジメントの委託を適正に行っているか。		3	4		
評価の根拠	ア. ケアマネジメント業務の委託先選定時に公正・中立性を担保するために行っている具体的方法【自由記入】	・委託台帳を作成し委託先に偏りがないように地域包括職員全員で情報共有している。 ・ケアプランチェックにおいて、長期間ケアプランの記載内容が変わっていないケアマネにはその点を指摘し改善を申し入れる等のケアマネジメントの質の平均化を図ったうえで、一定レベル以上の事業所にのみ委託を行っている。			
	イ. 居宅介護支援事業者へ委託した場合の台帳及び進行管理が行われている／いない	いる			
	ウ. 居宅介護支援事業者へ委託したケアプランの達成状況の評価の確認を行っている／いない	いる			
	エ. 委託先の安定的な確保のために講じている具体的な方策【自由記入】	予防プランを積極的に受託したいというケアマネは少なく、できれば受託したくないというケアマネが多いため、委託先を確保することが困難となっているのが現状。介護予防支援費の報酬が低いということもその理由の一つだが、予防のケアマネジメントやプラン作成が苦手であるという理由を挙げるケアマネが多いため、明第2西地域包括独自のケアプラン作成マニュアルを作成しケアマネ研修を行い優良な委託先の育成に努めている。			
	オ. その他【任意・自由記入】				

10. 松戸市指定事業

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例と課題	ヒアリング事項
①松戸市指定事業を適切に実施しているか。		4	3.5		
評価の根拠	ア. センターが開催する介護予防教室(体操教室等)の ①参加総数(29年度1年間)及び ②最も参加者が多かった教室の日程・内容・主な参加者層・参加者数 【参加総数・日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】 【月報の件数を記入】	①参加総数(2,258人)、開催総数(76回)、平均(30人/回) 内容:外部講師による体操とDVDを見ながらのグループ体操 月別開催回数 4月:2回、5月:4回、6月:3回、7月:3回、8月:3回、9月:6回、 10月:8回、11月:8回、12月:7回、1月:11回、2月:12回、 3月:9回 ②最多教室の状況 平成29年9月4日(月) 10時30分～11時30分 ロコ脳体操 86名参加(主な参加者層)元気高齢者			
	イ. センターが開催する認知症予防教室の ①参加総数(29年度1年間)及び ②最も参加者が多かった教室の日程・内容・主な参加者層・参加者数 【参加総数・日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】 【月報の件数を記入】	①参加総数(42人)、開催総数(4回)、平均(11人/回) ②最多教室の状況 平成29年9月21日(木)9時40分～12時 (内容)①認知症予防体操の実施・指導 ②認知症予防活動のセルフプラン作成講義、課題表の作成 (主な参加者)地域住民13名			

<p>ウ. センターが開催する介護予防普及啓発活動の参加総数(29年度1年間)及び日程・内容・主な参加者層・参加者数 【参加総数・日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】 【月報の件数を記入】 ※ア. イは含まない</p>	<p>参加総数(257人)、開催回数(21回) ・5月12日「樋野口いきいきサロン」 テーマ:『介護予防について』地域の高齢者8名 ・6月8日「百寿会」 テーマ:『地域包括支援センターの紹介』老人クラブメンバー25名 ・6月19日「古ヶ崎新田ふれあいサロン」 テーマ:『地域包括支援センターの紹介』地域の高齢者24名 ・7月9日「栄町3丁目井戸端サロン」 テーマ:『介護予防について』地域の高齢者30名 ・9月10日「福寿クラブ」『介護予防』について ・11月5日「あかね会」『がんばらない介護』老人クラブメンバー15名 ・11月20日「本田いきいきサロン」『地域包括支援センターの紹介』地域の高齢者25名 ・1月24日「栄町商店会との意見交換会」 『高齢者の見守りネットワーク構築について』商店会会員10名 ・2月24日「明第2西地区社会福祉協議会あきらこどもまつり」 『地域包括支援センターの紹介』地域住民3名 【介護予防サロン「すまいるサロン」】 8月25日:11名、9月12日:11名、10月3日:8名、10月24日:8名、11月7日:12名、11月21日:9名、12月5日:8名、12月19日:9名、1月16日:7名、2月6日:10名、2月20日:7名、3月6日:10名、3月20日:7名</p>	
<p>エ. ボランティアの育成の具体的な実施方策【自由記入】 (高齢者支援連絡会等既存のボランティア育成を記載。オレンジ協力員の支援は含まない)</p>	<p>【高齢者支援連絡会】 ・都市型介護予防松戸プロジェクトのプロボノチャレンジ企画を活用して、高齢者支援連絡会のPRチラシ作成を支援し、地域住民への知名度アップと新規メンバー募集に活用した。 ・相談協力員向けに車いす介助の研修を行った(10月19日)。 ・相談協力員による介護施設ボランティアの仲介を行った。 ・相談協力員にオレンジパトワークへの参加を呼び掛けたところ、数名が参加している。</p> <p>【その他のボランティア育成】 ・地域包括ケア推進会議にボランティア4団体(野ぎくの会、人材パワーアップセンター、松戸くらしの助っ人、傾聴ボランティアかざぐるま)を招待し活動内容の説明をもらい地域の人に紹介した。 ・住民主体のボランティアによる自主運営を行う「松戸市元気応援くらぶすまいるクラブ」創設を支援した。</p>	

オ. 申請代行業務(サービス利用の申請 代行、住宅改修の助言・理由書作成等) の実施件数 (29年度1年間)【月報件数を記入】	介護保険認定申請代行: 82 件 住宅改修の助言・理由書作成: 0 件 その他: (): 0 件 その他: (): 件			
カ. 各種保健福祉サービス・介護サービスの 普及啓発の具体的な実施方策【自由記 入】	地域包括の受付に各種パンフレットを常備し配布している。	